

京極読書新聞 <第91号>

発行日 平成29年8月1日(火)
京極町生涯学習センター湧学館

京中生に インタビュー

2017・第3回



平成28年度第27回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしています。バックナンバーや取り上げた本は湧学館で読むことができます。

グライナー オリビア咲さん(3年)「わたしたちが自由になるまえ」 小出 紗羅さん(3年)「朝のひかりを待てるから」

——お二人は3年生ですが、今までの中学校生活で思い出に残っていることは何ですか。

グライナー 今年、青森に行った修学旅行です。

小出 私も修学旅行です。

——お二人が読書感想文に、それぞれこの本を取り上げたきっかけは何でしたか。

グライナー 自由とか平和について知りたいと思ったからです。

小出 表紙の絵がかわいくて、好きだったので選びました。

——グライナーさんにお聞きしますが、この物語はドミニカ共和国の独裁政権時代の自由を求める闘いを見つめた少女の物語ですが、独裁政権と聞いて何を思いましたか。

グライナー 自由を全部奪われて、日本ではありえない話なんですけど、日本以外ではこういうことが起きているんだなと思いました。

——この本を読んで「自由」について考えたそうですね。今まで考えていた自由と、主人公アニータたちの考える自由とは、どのように違うと思いましたか。

グライナー 私が考えてた自由は、したいことができることでした。アニータたちの考える自由は、あたりまえのことがあたりまえにできることでした。

——この本からアンネ・フランクを思い出したそうですが、どこか似ていましたか。

グライナー 主人公が知りあいのかみかみで、自由に生活できないところなんです。

——この作者は読者に何を伝えたいかと思えますか。

グライナー 本当の自由とは何かということ、考えてほしいということです。

——小出さんにお聞きしますが、読みはじめて珍しい感じの本と思ったそうですが、どういうところですか。

小出 この本は子育てとか妊娠とかの話ですが、主人公が男の子だということなんです。

——この本は、「いま」と「あのころ」が交互に書かれていますが、小出さんはどう感じましたか。

小出 昔の気持ちがどうだったのかが分かって、読みやすかったです。

——とても印象に残った言葉が二つあったそうですが、一つ目はどんな言葉ですか。

小出 母親になる若いアニータが「お母さんなんかになりたくない。まだ自分自身、子どもでいたいもの。」という言葉です。

2ページ目へ続きます

——それを聞いてどう思いましたか。

小出 ニアは16歳の学生で、まだ大人になるには早いという気持ちに共感しました。

——二つ目はどんな言葉ですか

小出 主人公のボビーの「いまはこれでいいんだ、はじめてフェザーといっしょに、やわらかな朝のひかりを待てるから。」という言葉です。

——それを聞いてどう思いましたか。

小出 愛するニアがいなくなり、わが子のフェザーを育てることになるんですが、前向きにこれからも生きていこうとするのが印象に残っています。

——この本は読者に何を伝えたかったと思いますか。

小出 実際に何か問題が起きたときには、そこから目をそらさずにとということだと思います。

——最後にお二人にお聞きしますが将来やりたいことはなんですか。

グライケ 戦争とか国の貧困について考えていきたいと思っています。

小出 何になりたいとかいうのはないんですが、人生1回なので楽しく生きたいと思っています。

——今日はどうもありがとうございました。



「わたしたちが自由になるまえ」フーリア・アルバレス／著（ゴブリン書房，2016）
「朝のひかりを待てるから」アンジェラ・ジョンソン／著（小峰書店，2006）

赤木 咲弥花さん(1年)「夢へ翔けて」

——赤木さんは1年生ですが、中学校生活のなかで一番思い出に残っていることは何ですか。

赤木 体育祭です。運動は苦手なんですけど、みんなと協力して楽しかったです。

——読書感想文にこの本を取り上げたきっかけは何でしたか。

赤木 小学校の時の読み聞かせの時間に、湧学館の方がこの本持ってきてくれました。その時この本を借りて読んで、紹介しようと思いました。

——読書感想文コンクールの最優秀賞と聞いてどう思いましたか。

赤木 びっくりしましたが、嬉しかったです。

——この本は戦争孤児から世界的なバレリーナになった黒人少女の実話ですね。黒人ゆえの人種差別が描かれていますが、赤木さんはどう思いましたか。

赤木 すごく悲しい気持ちになりましたし、こういうことがあってはいけないと思いました。

——主人公のミケーラと自分を比べると、似ていないところがたくさんあったということですが、
 どういうところでしたか。

赤木 ミケーラはバレエのために、自分の大切な時間をたくさん費やして、くじけずに毎日頑張っているけど、私はなかなか継続できないところです。

——この本で一番印象に残っている場面はどこですか

赤木 ミケーラとお母さんとの会話の部分です。

——それはどのような会話でしたか。

赤木 ミケーラが「どうして私を養子にむかえたの」と聞くと、お母さんは「私たちは恵まれていたの。恵まれているということは、責任が伴うのよ。」と言いました。

——それで赤木さんは、この読書感想文のタイトルを『幸せの責任』としたのですね。この本をどんな人たちに読んでもらいたいと思いますか。

赤木 どんな人たちというよりも、一人でもたくさんの人たちに読んでもらいたいです。この本を読めば何か勇気づけられると思うからです。

——最後に、これから楽しみにしていること、または、将来やりたいことはなんですか。

赤木 楽しみにしていることは10月の文化祭です。将来は保育士を目指しています。



「夢へ翔けて 戦争孤児から世界的バレリーナへ」
 ミケーラ・デプリンス、エレーン・デプリンス／著
 (ポプラ社, 2015)

泉山 絢音さん(2年)「そんな軽い命なら私にください」 岩瀬 有里亜さん(2年)「社会人になる前に知っておくべき12カ条」



「そんな軽い命なら私にください」 渡部 成俊／著 (大和書房, 2007)
 「社会人になる前に知っておくべき12カ条」 樋口 裕一／著 (PHP研究所, 2012)

——お二人は2年生ですが、今までの中学校生活で思い出に残っていることは何ですか。

泉山 今年の宿泊研修です。

岩瀬 私も札幌へ行った宿泊研修です。

——お二人が読書感想文に、それぞれこの本を取り上げたきっかけは何でしたか。

泉山 本の題名がとても印象的だったので選びました。

岩瀬 将来について知りたかったからです。

——泉山さんにお聞きします。この本の作者は肺ガンを患い、余命一年半と宣告された後、命の大切さを伝えるために様々な活動を行いました。泉山さんならどうしたと思いますか。

泉山 私ならショックが大きくて、立ち直ることはできなかったと思います。

——この本を読んで強く感じたこと、思ったことは何ですか。

泉山 命の大切さや、人と人が支えあっていくことの大切さです。

——この本のタイトルが「そんな軽い命なら私にください」ですが、これはどういう人たちへ呼びかけた言葉だと思いますか。

泉山 私たちのような若い人たちへだと思います。

——泉山さんはこの本から影響を受けたことがあったそうですが、それは何ですか。

泉山 友だちや両親、先生方への感謝の気持ちを忘れずに、行動したいと思いました。

——次に岩瀬さんにお聞きします。この「社会人になる前に知っておくべき12カ条」で、一番印象に残ったところはどこですか。

岩瀬 成功の陰には必ず努力があるということです。

——努力するというのは具体的にどうすることだと思いますか。

岩瀬 毎日コツコツとやっていくことだとします。

——この本を読んでどんな感想を持ちましたか。

岩瀬 自分の日常を振り返るよいチャンスになりました。これからもコツコツ努力していこうと思います。

——他に読んで良かったと思ったところはあると思いますか。

岩瀬 自分を上手にアピールしようというところですか。

——最後にお二人にお聞きしますが、これから楽しみにしていること、または、将来やりたいことはなんですか。

泉山 バドミントン部で頑張りたいです。

岩瀬 私も野球部の部活が楽しみです。

～インタビューを終えて～

今年、初めて「京極読書新聞」を担当しました。毎年、前年の読書感想文コンクールに入賞した京中生にインタビューをするのですが、中学生と話をすることが、数十年この方なかったものだから、このコーナーはどうなることかと心配しましたが、杞憂に終わりました。中学生の皆さんが明るくしっかりと、インタビューに答えてくれたからです。どうもありがとうございました。

さて、この「京極読書新聞」8月号が出る頃は、もう夏休みが始まっていますよね。夏休みなので、1学期の疲れをとって2学期に向けて体調を整えてください。たまには、湧学館に来て気分転換なんていかがでしょうか。ご来館をお待ちしております。(野口)

京極読書新聞は
毎月1日発行予定です



発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>

